



学びの虹

東京都立鹿本学園 学校通信 令和3年9月1日号

東京都立鹿本学園

校長 高橋 馨

東京都江戸川区本一色2-24-11

電話 03-3653-7355

新学期のスタートです

今年の東京の夏は、緊急事態宣言が延長・継続され、沢山の我慢をしながら感染症に気を付けて過ごす夏でした。また、西日本では豪雨により広い地域で災害が発生した夏でした。そして、1年延期された東京2020オリンピック・パラリンピック大会が開催された夏でもありました。このような夏を乗り越え、様々な制約の中ではありますが、元気に登校する児童・生徒を迎え予定どおり新学期をスタートできたことを、とても嬉しく感じております。感染症対策では引き続き厳しい状況が続きますが、一つ一つの取り組みの一層の徹底を図り、学習活動の継続・充実に努めて参ります。

WE HAVE WINGS

さて、現在もパラリンピックが実施されており、障害のあるアスリートが全力で戦う姿や競技を終えてインタビューに答える姿が、連日テレビ等で報道されています。オリンピック同様にテレビ観戦で応援された方も多いのではないのでしょうか。また、写真(静止画)等でパラ競技のことを知識として知っていても、初めて見る映像(動画)の迫力に驚いた、そんな体験をされた方も少なくないのではと想像しています。

そうした報道に触れながら、心と考え感じたことがあります。それは、オリンピックのほとんどの競技は、オリンピックの実施に関わらずテレビ等で日常的に目に触れる機会がありますが、パラリンピックの競技やパラ・アスリートについては、パラリンピックの大会期間以外は報道等で扱われることも少なく、関心をもって見ようとしないと接する機会は極端に少ない、ということです。競技人口が相対的に少なく、情報を求める人や社会のニーズが少ないからな

のか、などと考えを進めると、オリ・パラ教育の「重点的に育成すべき5つの資質」のひとつである「障害者理解」についても、意図的に何かをしなければ障害者について知る機会が少なく、考え・理解を深め広げることも難しい現状にあるのではないかと。少々乱暴な考え方ではありますが、改めてそのように感じてしまいました。本来であれば、特別支援学校も含めた大勢の児童・生徒が競技会場で観戦し、児童・生徒の学びと共に大会を盛り上げているはずでした。オリンピック・パラリンピックを契機として「障害者理解」の機運を高め、そのムーブメントをレガシーとして継続することで、障害者を理解する「心のバリアフリー」を、児童・生徒を通して社会に浸透させていくことが期待されていました。そうした意味でも、連携観戦が叶わなかったのは大変残念なところです。

しかしながら、コロナ禍のオリンピック・パラリンピック大会ではありましたが、それを乗り越え競技に取り組むアスリートの姿からは、沢山の方が勇気をもらい、そして「レジリエンス(折れない心)の精神」が伝わったように感じます。“パラリンピックの父”と呼ばれるルードウィッチ博士の有名な言葉「失ったものを数えるな、残されたものを最大限生かせ」は、コロナ禍で新学期を迎える私たちへのメッセージとも取れます。2学期に予定されていた宿泊行事は全て中止となりました。11月に予定されている虹輝祭も実施内容の更なる変更や工夫が求められています。日々の学習においても歌唱や調理をはじめ感染リスクの高い活動は引き続き制限されます。感染の状況によっては、児童・生徒が登校できなくなることも想定されます。でも、パラリンピック開会式のテーマに示されたように、私たちにもこの状況を乗り越える「翼

（つばさ）」があります。学校では教職員が一丸となってアイデアを出し合い、例えば「コロナ禍でも可能な授業参観」など、他校のアイデアも取り入れながら工夫し、できることを積み上げ、コロナ禍での新たな学習活動や行事の準備を進めています。

このような状況だからこそ、児童・生徒一人一人が、個性豊かな自分の翼を力強く羽ばたかせ飛び立てるよう学習活動を支援し、その成果を積極的に発信していくことが、「障害者理解」や「心のバリアフリー」につながる活動であると考えています。児童・生徒の輝く姿を発信し続けることを、オリンピック・パラリンピック教育のレガシーとして、充実・継続に努めてまいります。2学期も本校の教育活動への御理解と御協力をお願いいたします。

連携観戦は辞退しました

学校連携観戦は、5年に渡り取り組んできたオリ・パラ教育の総まとめの活動であり、参加する児童・生徒にとっては競技や大会の雰囲気や直接体感できる一生に一度の貴重な機会でありました。しかしながら、参加の最終的な判断をしなければならぬ時点で東京の新規感染者数は4千人を超える水準が継続していました。このような状況では、万一感染した場合に十分な治療を受けられない可能性が高く、これは基礎疾患のある本校の児童・生徒にとっては、命に係わる重大な事態となることが想定されます。そうしたことから、たとえ僅かでもリスクを減らす努力・選択が求められる時であると判断し、中止することとしました。楽しみにされていました、児童・生徒、保護者の皆様には大変申し訳ありませんが、御理解くださいますようお願いいたします。なお、ICT機器による映像資料等を活用したオリ・パラ教育のまとめの学習は、全校で進めてまいります。

感染症対策の更なる徹底

現在、猛威を振るっているデルタ株は、児童・生徒の感染リスクも高く、これまで以上に徹底した感染防止の取り組みが求められています。学校としましては、これまで行ってきた取り組みを、より丁寧に確実にを行うと共に、都教育委員会から緊急配備されるサーキュレーターとCO2測定器を各学級に設置し、感染症対策を一層徹底してまいります。

また、感染拡大防止の観点で、始業式から当面の間は、学級や学習グループなど校内での集団を固定して学習を行います。通常とは異なる体制になることを御理解ください。

緊急時の対応について（お願い）

本校関係者の感染の状況についてはマチコミメールでお知らせしておりますとおり、7月下旬から陽性や濃厚接触となる方が増えてきています。児童・生徒本人だけでなく、御家族の方が陽性や濃厚接触となった際は、これまでどおり登校を控えていただくことになります。また、デルタ株への対応として、陽性者が確認された際は、これまで以上に広く濃厚接触者、あるいは濃厚接触候補者が指定される傾向にあります。各御家庭におかれましては、急な出席停止あるいは学校から引き取りの連絡があることも想定し、事前に家庭内で必要な準備や調整をしていただきますようお願いいたします。

また、同時期に複数の教職員が勤務できない状況となった際には、学習内容の変更だけでなく、S部門では保護者による医ケア実施の依頼等をさせていただくことも想定されます。そうした事態とならないよう、前述のとおり一層の感染対策の徹底に努めて参りますが、緊急時には、御理解・御協力くださいますようお願いいたします。

鹿本学園校長 高橋 馨